

我が方に勝利の氣運が生じて遅れをとつてはならない場合に五つある。敵に勝氣（勝利の氣運）が減じているならば、これを追撃せよ。歩兵と騎兵が散々に乱れ、走って倒れつまづき、行軍が整齊さを欠き乱雑であるならば、これを追撃せよ。敵が走ってその郷里に赴き、あるいはその城壁に向かっているならば、これを撃て。兵器や糧秣を棄てて、馱馬の動揺を鎮めていない敵であれば、これを追撃せよ。大将や集団のかしらが討死し、残党が敗北しているならば、これを追撃せよ。もしも敵軍が敗れたと云えども、勝氣が未だに滅せず、旗や幟に錯誤が無く、隊伍の行進が乱れず、途上で困窮し食糧を欠いていると云えども兵たちは未だ散りじりにならず、大軍が乱れながら行進して前方の徑路に迫り、敗軍を追い越して敵のゆく手を遮（さえぎ）つたならば、過つてこれらの所を攻撃してはならない。そうであっても、その状況は絶えず変転して極まりないものであるから、多くは肩の占足並（意味不明）を以て心得たものでなければ、失うものが多く利益は少ないものとなるのであろう。例えて云えば兵法の教えというものは車のようなものである。物を載せて行くのは車であると云えども、その東西南北、時々に応じて適用する事は、人々の当時の機転の利かせ方によるものである。兵權（戦において状況を急変させてにわかには勝敗を決する決め手、その場に適した臨機応変の処置）のそれぞれは、その時々で瞬時になさねばならないが、兼ねてからこの兵法の道を勤め学んで、胸の内に納めていけば、状況の変転は無限にあつても、どうして時に応じて理にかなった正しい判断ができないことがあるか。素書にも「古を推し今を驗み、以て惑わざる所なり。未然を欲せば先ず既往を察せよ。※」とある。

※ 昔のことを推察してから今現在のことを試みよ。そうすれば戸惑うことはない。未然に防ぎたいことがあれば、先ずこれまでにあつたことを觀察せよ。